

新しい又リエ帖について

及川ふみ

ぬりゑの畫の新らしいのをかきました。新らしいもの必らずしもよいものではありません。たゞ幼児三日頃一緒にぬつて見て具合の悪いものはごりのぞき、面白がつたものはごり入れて二冊の綴りごいたしました。

これは本體としては色鉛筆で輪廓の外に、はみ出さない様に注意深くぬるごいふのであります。そのため一つの色でぬる色の大きなごも幼児の力を考へて適當にいたしました。

畫の材料も幼児が日常手近かに見てゐるもの、興味のあるものなごごり入れて觀察このつゞきあひも考へました。ぬり方について一枚づゝに説明するまでもないものもありますが一通り頁をくつて書いてみませう。

1

ヒノマルノハタ

日の丸は赤、金の玉は黄色、竿の白いところは緑を薄くぬる

ヒヨコ

くちばしは赤を薄く、からだは全部黄色

キシヤ

機關車の煙突、かまは黄色その他は茶色、客車は緑、赤、青、紫配合のよき色を一車づゝぬる 車はいつれも茶色、

マリトコマ

ゴムマリは黄色の地に赤を縦横に細くぬる、コマは外から緑、青、黄の三色にぬりわけ

キンギョ

大きな金魚は白地に赤の斑のあるものにしてぬり、小さい方は赤無地にする。

ウチハ

丸ウチハは白地のところへ自由畫をかゝせる。四角の方は茶色にぬる。竹の骨ミ柄は黄色にぬる

トマト

トマトのへたはみどり色に、その他は赤を大部分にして一部分黄色を少しぬる

アサガホ

花の色は紫、赤なご幼児のこのむ色にぬる。莖ミ葉はみどり

ホウゾキ

橙色の色鉛筆のなき場合は茶色をぬつて、その上に赤をかける、クレヨンの橙色をぬつてもよい

ウサギトカメ

ヒノマルの旗だけは赤ミ黄色の色をぬり、龜ミ兎は墨をぬる。

墨でぬる事は少しむづかしいやうであるが少人数づゝかはるゝ保姆の目のミゞくミゞころでぬらせるミ上手にぬれるものである

カキ

カキをぬる時には實物があればそれをみせてぬるこよい。莖は茶色、葉の緑

サクラ モミヂ イテウ

それゝの葉の實物が得られゝば、それを見てぬらせるサクラモミヂは赤、黄、緑、の三色にぬりわけ イテウは黄色にぬる。

アネサマ

顔には頬紅ミ口紅をつけ、かんざしその他のかざりは赤、黄、青なごでぬる。臺の麥わらは黄色に紐は茶色にぬる

ダルマ

赤ダルマミ金ダルマで赤ミ黄色でぬる

目玉は黒くいれる

ハネ

ハネの實物を見てぬる。多少形はかはつてゐてもよいのである

フクジュソウ

花は黄色、苞は茶色、少し出てゐる葉は緑

フウセン

フウセンは配合のよい三つの色をぬる。子供の洋服は幼児のすきな色にぬらせる

オヒナサマ

親王様は青に、内裏様は赤に、臺の上は緑に前は黄赤緑の三色に染めわけ。

モヨウ

蝶の色、地の色は幼児のすきな色にぬる。

ラッパスイセン

三月の終には花屋の店頭にならべられるやうになる。ラッパスイセンを花瓶に二三輪さしてこれを見てぬらせる。

2

テフトフトタンポポ

黄色い花に黄色の蝶、莖の根元を少し赤くぬるその他はみどり色にぬる。

コヒノボリ

竿は緑色に玉ミ風車は黄色に、吹流しは五色にぬりわけ

る。真鯉の方は各鱗の半分は青でぬり緋鯉は全部赤くぬる眼は青黄色でぬる。

アヤメ

花びらの直下を黄色に他は紫にぬる

グンカン

グンカン旗は赤く、軍艦は墨で黒くぬる

ネッタイギヨ

大きなお魚は青み紫に、小さいお魚は赤くぬる

スイレ

花は赤又は黄色にぬる、花の心はいつれの色にしても黄色にする

タマムシトテントウムシ

タマムシは緑み紫の縞にぬり、テントウムシは丸玉を赤くして地は墨でぬる

ヒマハリ

花は黄色には、心は少し緑、茶色をませてぬる

オツキサマトリス

オツキサマは黄色に、リスは墨でぬる。木の枝は茶色に

葉は緑

オニンギヨウ

幼児の好きな洋服にする。ぬる場面が多いから模様にする方がよい。

オモチヤノキシヤ

形がかはつてゐてもよいから、おもちゃの汽車を見せてぬらせる。

カラスウリ

實は橙色のクレヨンか色鉛筆ならば黄色ミ赤をぬる

タヒグルマ

タヒは赤く、臺の上はみづ色に、車ミ紐は黄色にぬる。場面が多いので二度に分けてぬるこよい

カミフウセントオテダマ

フウセンは赤ミ黄色、黄色ミ紫なミ、二色配合のよい色をえらんでぬらせる。お手玉は又別の二色をぬる。

カサノモヤウ

これは幼児の好きな色にぬらせる

オスマウ

からだはうす赤に、化粧まわしの房は黄色に、その他は随意にぬる。中央に角力の名をかくこよい

リンゴ

リンゴは赤く、ナイフ、ホークの柄は緑ミ黄色にぬる。

お皿の筋は青くぬる。

スイセン

實物の花を見てぬる。

オヒナサマ

これは普通によくあるものであるから適當の色にぬる。

トラ

トラはその線の上もかまはず全部黄色でぬりつぶす。